

# 地域おこし協力隊 活動記 Vol.34



こんにちは！地域おこし協力隊員の北野です。

昨年、初めて参加させていただいた「ろうそくまつり」。下見に出向き、あまりの雪の多さに諦めかけた昨年の記憶が鮮明に蘇ります。着任前ということもあって、松明行列に加わるので精一杯でしたが、おかげさまで家族ともども健康な一年を過ごすことができました。今年はその恩返しも兼ねて準備から参加。今回は、その様子をお伝えします。

冬の沢田までの道のりは、強力な除雪隊の協力で快適そのもの、昨年驚いた整備力には今年も脱帽でした。

到着後、前日からの作業を引き継いで、まずは参道の整備。雪で作った階段に積もった雪を排出しながら、一段一段足で踏み固めて、仕上げにアク撒き。ほこら近くの急斜面では、足元が下がるだけでも怖いもの。安心して下りられるよう、キッチリ角度を整えて完成です。

次は、かまくり&道路のろうそく準備。手作業で、雪壁に一つ一つ穴をあけて、あかりの元をそこにセット。ろうそくをコップに入れて、水に浮かべて着火します。コップは風よけで、水は灯火を長持ちをさせるための秘訣だとか。（この歳で）初めて知りました…（汗）。手が込んでますね。手間もかかっています。最後は、いよいよメイン会場のあかり



に着火。今年のテーマ「繋がり」をイメージさせるごぎん刺し模様に沿って、急斜面一面に並べられているろうそく。これら一つ一つチャッカマンしていくのですが、着けては消え、消えては着けての繰り返し…。なんとか開会に間に合いました。

雪の中でゆらゆらと揺れる「雪あかり」、最高でした。みんなで力を合せて祭りを作りあげる。今年は、微力ながらお手伝いできたのでなおさらでした。

協力隊の「あかり」さんは、エビの山崎さん&ハンタークラブの皆さんと「マタギ鍋」作りをお手伝いさせていただきました。

「初めは勝手な想像をしてブルブル怯えていたのですが、鍋のふたを開けると食欲をそる良い香りがして一安心！その後は皆さんの面白トークに終始笑わせていただきながら、大量のねぎと白菜、そして百匹近いニジマスを捌いて調理し、大鍋4つ分のマタギ鍋を完成させました…気分は花嫁修業でした（笑）」

お祭りが始まると多くの方が、マタギ鍋を買い求めに訪れ、冷えた体を温めていました！

みんなで作ったマタギ鍋はやっぱり美味しい！相馬でしかない貴重な体験をさせていただき、とても嬉しかったです！「次の世代にも繋げていきたいですね。へば！」